

×土地でできた土産品というところ
 □熔岩糖(三〇〇円、五〇〇円、一〇〇〇円)
)や阿蘇の白雪(五〇〇円、一〇〇〇円)などです。

見たところ商品はあまり豊富ではない。エハガキなども四種類位しか出ていない。駅前には大きな土産品店があるのでその方に食われるのだから。
 こけしはおてもやんや彦しやん、五木の子守などが並んでいるが、デザインはありふれたもので新味がない。

どつと他府県産

駅前土産品店

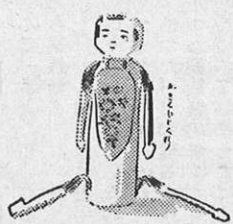
坊中駅前には数軒の大きな食堂旅館兼土産品店がある。その一つ「観光土産店」を訪れると、店頭には折からの雨にもかかわらず三々五々登山客が入ってくる。ずらりと並んだ陳列棚の土産品は、いすこも同じ品物ばかり。主人にきくと「やはり大部分は他府県の産物です。たとえばこけしなどの木製品は広島、福岡、小田原あたり、やきものは岐阜県、多治見、タオルは久留米や別府、鏡は名古屋、額縁は長野、竹細工は別府といった具合で、何れも見本をもつて注文とりに来ますから、それを卸でとるわけです。こちらではデザインに注文をつける程度であとは全部卸任せです。」
 土地でつくるのは菓子類だけで、中でも阿蘇の産物は山の味という羊かん(坊中)火の山せんべい(坂梨)それに昔からある阿蘇の白雪という落がん位なものです。」

羊かんは別に変つたものでもないが、せんべいは包装が竹の皮で面白い、阿蘇の白雪は実質的には銅銭糖と同じだが二センチ四角位の紅白の落がんを市松風に

包んであるのがミソ。たゞし白雪の名にはそぐわないし包装にも今少し工夫がいる。

趣味の陶器高田焼

湯の街日奈久——
 濃い緑の山がのしかるように町裏にそびえ、日盛りの夏空には入道雲がむくむくと湧き上っている。前面の八代海には石灰石の採掘でめつきり小さくなつた大築島が白く印象的に輝いている。



八代市役所日奈久出張所の松本所長はこの町の出身だそうで、町の発展には特に関心が深く、忙し中を近くの高田(こうだ)焼かま元山下唯彦さん宅へ伴れて行かれた。コスモス一杯植えられた庭を前に、数々の作品を示して山下さんはほつほつ話してくる。

高田焼は加藤清正が征韓役の時連れ帰つた朝鮮人陶工の子孫を、細川忠利が高田村に招いて御用窯(かま)を命じたのが始まりだといわれる。山下さんは天草の産で同郡の水平焼の技法をとり入れ、更に工夫をこらして新境地を開きつ、ある。

高田焼はこまかなヒビを包む青灰色のなめらかな肌と、白く桜の小花を散らした模様は伝統のデザインとして知られ、茶器、食器、花瓶、水差し、皿鉢等いろいろ種類がある。山下さんは形にも色にも模様にも独特の意匠をこらして近代人の嗜好にマッチするように努力している。現在のところ娘さんと二人で全工程に当たっている。数量は年四回程度のカ

マ入れでは大したこともないが、好事家とか趣味人とかいわれる顧客の用には十分立ち得よう。
 日奈久には外に上野さんという人がカマをもつており、この方は主として伝統の型を守っているという。ともあれ小傭水平と並んで本県では数少ない陶器の一つであり、その将来には大いに期待したいものがある。

期待もてる竹細工

素焼の沢山並んだ工場を見たあと、引き続き松本さんの案内で町の観光土産品協会長岡部義孟(ハル)さんを訪うた。あいにく不在だったが店番の奥さんとの話を、店内の観察でおよそ次のような結論を得た。

民芸土産品の少い本県では日奈久など出色な地域といえる。高田焼は別として竹細工おきんじよ人形、きし車等々、中でも竹細工は数量も多く、質的にも優れ、出来たハンドバッグが海外で好評を得たことはい先ごろの新聞でも報ぜられたところ。

店内に陳列されたものを見ても、他に各種籠類、ザル、サナ、土瓶しき、帽子等々々



モダンなハンドバッグ、上品な弁当籠中でも軽快な婦人帽は、夏の海水浴や登山に若い女性の人気を博するだろう。団体の時、スタンドでの日よけなどには絶好のものではなからうか。大量にストッキングをつくりたいものだ。たゞしこれは筆者の私見

現在町内の竹細工工場は五六軒、家内工業で人数も十数人に過ぎぬというから大量生産には相当の日が必要だろう。

次におきんじよ娘、これは病父のため温泉を発見した六郎左衛門の恋人おきんをモデルにしたといわれる素朴な人形で、桐の木でつくつたこけし風のものが、手足のあるだけが異色である。雉子車も木彫の荒けつりに如何にも民芸らしい趣きがあり何れも蒐集家などに喜ばれそうだが。ただ一般の外來者特に団体に来る若い人たちの感覚にアツピルする。ことに疑問がある。何か新しいデザインでアレンジしたのも必要ではなからうか。原形は原形のまま、残すとして。

木ノ葉猿のような

観光課長 松下義之(談)



観光客は土地の名産を土産に買つて行くのが常識です。国体に来る人たちも一種の観光客ですからこの機会にたい土産品を売り出すことはもちろん大切なことだと思ひます。国体にくる人は先ず知識階級が多いので宣伝力も十分です。全国に肥後名産を売り込むという将来性も大いに考えられることです。

たゞ他府県出来の土産品を転売して利ザヤをかせぐなどというケチなことではなく、土地でつくつた郷土色ゆたかなものがほしい、たとえば木ノ葉猿のようなものです。

私の友人で天草の陶土を東京に取寄せて陶器をつくりたいのがありますが、折角優秀な陶土をもつているのだから、水平焼だけでなくもつと新しい製品をつくつてはどんなものでしょうか。(目次カツトは木ノ葉猿)

土地改良部のめざすもの

以上の事柄を総合しますと、県の農業生産の実態はその内部に大きな改善の要素を含みながらも、打ちつゞく天災のためにその復旧に追われ、県財政のひつ、迫と共に積極的にその基本的な事業を推進するに至らなかつたともい、得るのです。しかし産業振興もようやく実を結び段階に入り、今次の機構改革ではその発展的施策として新たに土地改良部を新設し、土地改良事業に大きなウエイトが置かれるにいたりました。今までの耕地事業は食糧増産に片より日本人を食糧飢饉からどう救うかということで精一ぱいでしたが、これからの土地改良事業は、農家経営を中心として健全な中等農家を創ることに、いわば農家の二、三男対策をも考慮に入れた幅広い施策に重点が向けられることも大きな進歩といえましよう。こゝで考えられることは、計画がいかに立派なものであつても皆さんの協力がなければ実現できるものではないということです。そして、今までに述べた問題点の打開に積極的のり出して県の農業の振興と農家経営の安定と強化をはかるうというの、いわば土地改良部新設の目ざすところでもあるわけです。

火山弾の花瓶

広報課長 林田孔生(談)

観光土産という以上は、その土地でなければ得られないものが第一の条件でしょう。私は阿蘇の事務所長時代に火山弾でつくつた花瓶をすゝめたことがありますが。火山弾をくりぬいて竹筒をはめこみ水のもれるのを防いだだけのものですが、阿蘇独特の野趣と地方色があつて面白く思ひました。とにかくよいアイデアとよいデザイン、それに適当な商品化と三拍子そろつた真の熊本土産をつくり出して、国体までに売出せるよう努めたものです。(広報課)

第六回(昭和三十三年)

- 10 さくら漬 (荒尾市)
- 11 恋路 (玉名市)
- 12 助六巻 (山鹿市)
- 13 山鹿灯笼 (山鹿市)
- 14 新うに (本渡市)
- 1 松風 (菊池市)
- 2 鮎の粕漬 (人吉市)
- 3 貝細工 (本渡市)
- 4 灯籠もなか (山鹿市)
- 5 お伽のたね (熊本市)
- 6 湯の町せんべい (水俣市)
- 7 ばした人形 (熊本市)
- 8 小袋焼 (荒尾市)
- 9 古今伝授 (熊本市)
- 10 (松風)肥後のほまれ (玉名市)
- 11 わかめの佃煮 (本渡市)
- 12 (小刀)肥後の武蔵 (熊本市)
- 13 肥後土偶 (熊本市)
- 14 滔天漬 (荒尾市)

第七回(昭和三十三年)

- 1 うに豆 (本渡市)
- 2 肥後象がん火箸 (熊本市)
- 3 小袖餅 (宇土市)
- 4 焼酎もなか (人吉市)
- 5 長者もなか (玉名市)
- 6 おどんが団 (熊本市)
- 7 恋衣 (山鹿市)
- 8 茶飴 (山鹿市)
- 9 相良まん頭 (人吉市)
- 10 味道楽 (熊本市)
- 11 銅銭糖 (熊本市)
- 12 しいたけわさび漬 (熊本市)
- 13 銀杏こけし (玉名市)
- 14 千筋籠 (日奈久町)
- 15 高田焼 (日奈久町)
- 16 蘇峰の梅 (熊本市)

県内の代表的土産品

観光土産品展入賞のあと

第五回(昭和三十一年)

- 1 鮎のうるか (八代市)
- 2 長者まん頭 (玉名市)
- 3 石人形 (人吉市)
- 4 五峰の路 (玉名市)
- 5 水前寺のり (熊本市)
- 6 赤酒 (熊本市)
- 7 お国自慢 (熊本市)
- 8 かぐみ焼 (鏡町)
- 9 相良人形 (人吉市)